

環境科学科

環境科学科の目的

環境科学科は、環境を保全し健全な社会を持続的に発展させるために、環境衛生学、環境分析学、環境評価学及び環境保全学を学び、環境問題を正確に把握し対応できる能力を身に付け、これまでに集積された科学技術を有効に活用し、環境保全や社会の持続的発展に貢献できる人材の養成を目的とする。

1. ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

- (1) 健康な環境を創造する意欲や社会に貢献する責任感を持ち、環境の諸問題を解決するために持続的に取り組むことができる。(環境に対する問題意識と愛情を持続する力)
- (2) 環境の問題を正確に捉えるために、理化学的、生物学的、社会的な調査・分析を行い、環境の実態(環境の健康度)とそのヒト、生態系および社会への影響を正しく評価することができる。(環境問題を発見・分析・把握する力)
- (3) 健康な環境の保護・保全のために、技術的(自然科学)、社会的(社会科学)な知識を用いて、様々な環境の問題を制御・管理し、より健全な環境の創成に取り組むことができる。(環境問題を解決する力)

2. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

環境科学科では、生命・環境科学部の理念・目的に基づき、ICTを活用したカリキュラムの充実をはかり、幅広い教養とともに、環境問題に関わる自然科学および社会科学に関する専門性を習得し、高い倫理観と環境と人と社会に対する深い愛情を身につけた人材を育成する。

- (1) 1年次には大学生として必要な一般教養と、環境問題を学ぶ上で必須となる自然科学及び社会科学の導入科目を配置する。さらに、コミュニケーション能力を養うために、アクティブラーニングの要素を取り入れた科目を配置する。
- (2) 専門科目においては、環境問題の把握や解決に必要な科学知識などを段階的に習得するように、講義・実習・演習を配置する。
- (3) 環境問題を把握し解決する力を養うために、環境分析、環境衛生、環境評価、環境改善に関する自然科学系科目の講義・演習・実習を配置すると共に、社会科学系科目の講義を配置する。
- (4) 能動的な思考や現実的な解決能力を養うために、卒業論文、課題研究やインターンシップを配置する。
- (5) 化学物質の使用や労働衛生、社会調査に関する資格を取得できるように、必要な科目を配置する。

3. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

健康な環境の創成を目標に、様々な環境の問題を発見し、その問題を解決することに粘り強く取り組める人材を育成するために、次のような人を求めている。

- (1) 化学、生物、英語などの基礎学力を有している人。
- (2) 環境保全や環境問題に強い関心がある人。
- (3) 環境科学やその対策技術について学習意欲がある人。
- (4) 環境科学科の教育理念、教育方針、教育内容等を理解し、環境保全や環境問題解決に貢献する強い意欲を持っている人。